

ギリシャ概況(2018年8月号)

1. 内政

- ・3日 7月23日に発生した山火事への対策の責任を取り、トスカス内務副大臣が辞任した。
- ・5日 外交・国防政府審議会の臨時会合が開催され、ツヴァラス警察庁長官及びテルズディス消防庁長官が離任し、後任にそれぞれアンドリコプロス副長官及びマトセオプロス事務次官補が任命された。
- ・21日 チプラス首相は対ギリシャ支援プログラムが終了した旨の宣言を行った(於:イサキ島)。
- ・27日 SYRIZA 中央執行委員会にて、スクルレティス内務相が党幹事長に選出された。
- ・28日 政府が内閣改造を実施。内務大臣にアレクシス・ハリチス前経済開発副大臣、内務政務官にマリナ・フリソヴェロニ氏及びカテリナ・ノプル氏、市民擁護大臣(新設ポスト)にオルガ・イエロヴァシリ前行政再建相が就任した。

2. 外政

- ・6日 ロシア外務省が、先月のギリシャ政府によるロシア外交官の国外追放及び入国禁止措置に対する報復措置として、在ロシア・ギリシャ大使館員2名の追放及びヨルゴス・サケラリウ外務大臣付政治室長の入国禁止を決定した。
- ・15日 トルコのアドリアヌポリの刑務所で拘留されていた2名のギリシャ人兵士が釈放され、帰国した。
- ・27~29日 コジラス外相が中国を訪問し、王岐山国家副主席及び王毅外交部長等と会談した。両国外相は「一帯一路」の協力メモランダムに署名した。
- ・30~31日 コジラス外相がEU外相非公式会合(於:ウィーン)に出席した。
- ・31日~1日 コジラス外相が不法移民・テロリズム・気候変動等欧州の課題に係るフォーラム(於:クロアチア)に出席した。

3. 移民・難民問題

ギリシャへ入国する移民・難民の数が去年に比べ倍増している。政府が庇護申請者のための収容施設を増設しているにも拘わらず、レスボス島、ヒオス島、サモス島における施設が超過密状態にある。

7月31日現在 ギリシャに滞在する移民・難民は61,000名(UNHCR発表)。

4. 経済

(1) 対ギリシャ第3次支援プログラム

・6日 欧州安定メカニズム(ESM)は、対ギリシャ第3次支援プログラムの最後の融資(150億ユーロ)を実施した。右融資のうち、55億ユーロが債務返済に充てられ、95億ユーロが債務返済に備えた予備口座に移される。

・20日 対ギリシャ第3次支援プログラムが終了した。

(2) 経済動向

・10日 格付会社フィッチ社がギリシャの国債格付け評価をBからBB-に引き上げ、見通しを安定的とした。

(3) 財政

ギリシャ財務省が8月24日付で公表した1月から7月の財政統計によると、1月から7月の財政収支は16億400万ユーロの赤字、同期間のプライマリーバランスは20億4,600万ユーロの黒字となった。同期間の歳入は273億8,800万ユーロで政府目標を3億1,300万ユーロ(1.2%増)上回り、歳出は289億9,200万ユーロと政府目標より6億9,100万ユーロ低く抑えられた。

(4) 輸出入

ギリシャ統計局の9月7日付の発表によると、7月の輸入総額は50億3,330万ユーロ(前年同月比26.2%増)、輸出総額は29億3,830万ユーロ(前年同月比20.9%増)となった。

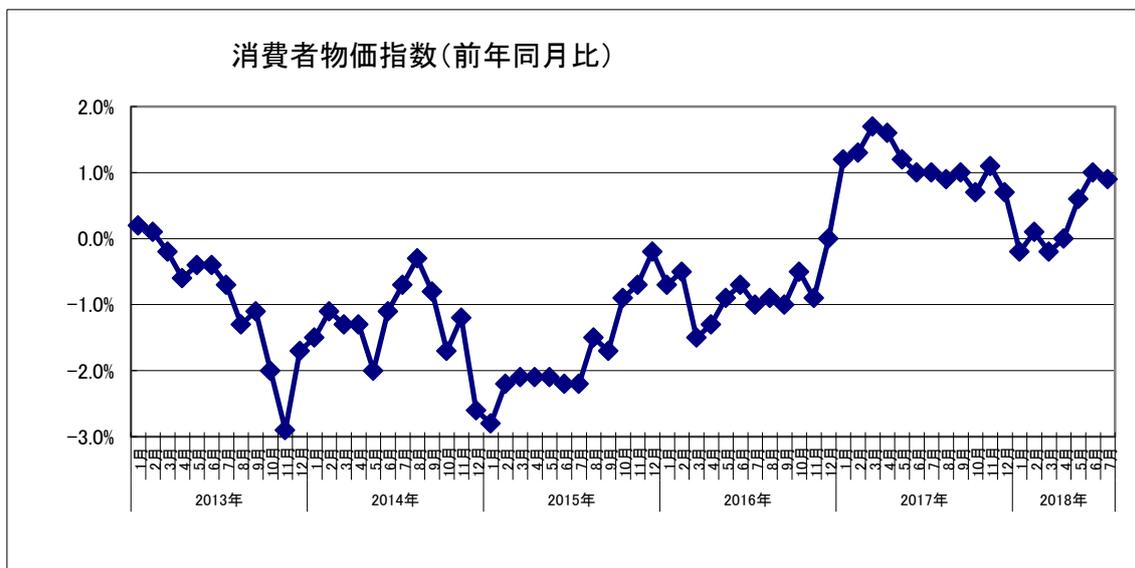
(5) 観光業

ギリシャ観光業協会(SETE)の発表によると、7月の観光客は、383万2,333人で、前年同月比9.8%増となった(国内主要空港の観光客到着数(暫定値)ベース)。内訳は、アテネ空港が79万7,216人で(同18.1%増)で、テサロニキ空港が31万503人(同10.7%増)となった。

5. 経済指標

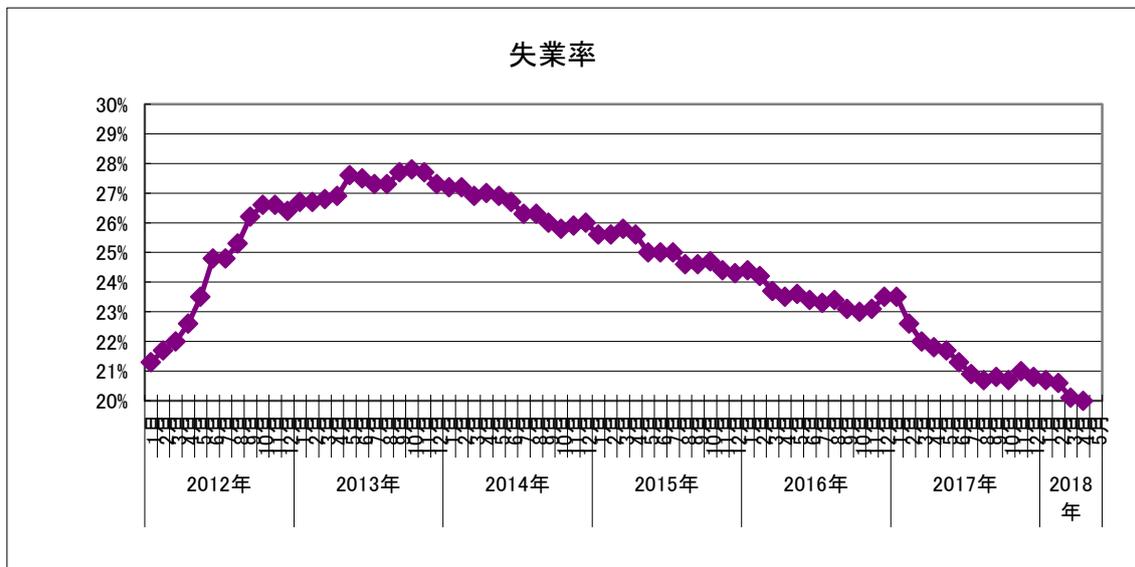
(1) 消費者物価指数

ギリシャ統計局の8月9日付の発表によると、7月の消費者物価指数は前年同月比0.9%増となった。



(2) 失業率

ギリシャ統計局の8月9日付の発表によると、5月の失業率は19.5%となり、前月から0.5%減少した。



※2018年4月の失業率は、ギリシャ概況(2018年7月)公表後、ギリシャ統計局により20.2%から20.0%に修正されており、本号では当該修正後の数字を使用した。

(3) GDP

OECD のデータによると、2018 年第 2 四半期(4 月～6 月)の実質 GDP 成長率は前年同期比プラス 1.8%となった。



※2012 年第 2 四半期以降の実質 GDP 成長率は、ギリシャ概況（2018 年 7 月）公表後、OECD により修正されており、本号では当該修正後の数字を使用した。

※この概況は各種報道・公表資料を基に作成した。

(了)